

# 全電源喪失の記憶

証言 福島第1原発

## ■第2章「1号機爆発」

どうしてこんなことになってしまったのか。3月12日午後3時半、福島第1原発から約5キロの大熊町役場の玄関で、企画調整課長の秋本圭吾(58)が車に乗り込もうとしていた。全町民約1万1千人の避難がほぼ完了し、役場に残っていた職員数人も避難することになったのだ。

原子炉が止まらなければ、何とかなると思っていた…。秋本は唇をかんだ。

東日本大震災の発生直後、町は役場2階に災害対策本部を置いた。町中が停電したため、災害対策本部は非常用発電機で照明やテレビをつけることができた。町内にどんな被害が

## 「念のため」の緊急事態



避難のため大熊町の体育館に集まった住民。2011年3月12日午前7時30分ごろ(町提供)

# 正確な情報伝わらず

出ているか、住民は無事避難できていたか。職員たちは情報収集に追われた。

原発担当の秋本は第1原発免震重要棟と直接つながる専用電話を取った。だが呼び出し音がない。地震で断線したのかもしれない。秋本は第2原発との専用電話で、第1原発の原子炉停止を確認した。

「それで『大丈夫』と思ってしまっただけだ。町の津波被害の方に気が持たかっただけだ。」

「その時の私は見通しを説明できず、状況になく、情報を正確に伝えられなかった。」と須田は説明する。

第1原発から「原子炉水位が確認できず注水状況が不明」とのアラが来た。原子力災害対策特別措置法19条(緊急事態)に該当するとい

ころか、須田も町の職員たちも想像田真実)

「念のための判断」。この「念のため」がさらに秋本の判断を鈍らせてしまった。

11日夜に第1原発から広報担当の須田和夫(51)ら2人がやってきた。

「念のため」の判断。この「念のため」がさらに秋本の判断を鈍らせてしまった。

「念のため」の判断。この「念のため」がさらに秋本の判断を鈍らせてしまった。

「念のため」の判断。この「念のため」がさらに秋本の判断を鈍らせてしまった。

「念のため」の判断。この「念のため」がさらに秋本の判断を鈍らせてしまった。

「念のため」の判断。この「念のため」がさらに秋本の判断を鈍らせてしまった。

「念のため」の判断。この「念のため」がさらに秋本の判断を鈍らせてしまった。

「念のため」の判断。この「念のため」がさらに秋本の判断を鈍らせてしまった。

「念のため」の判断。この「念のため」がさらに秋本の判断を鈍らせてしまった。

「念のため」の判断。この「念のため」がさらに秋本の判断を鈍らせてしまった。